

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 3 月 29 日	
所属部局・職	霊長類研究所社会生態分科・修士課程学生
氏名	石塚真太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
大分県高崎山	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
高崎山実習	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 28 年 3 月 23 日 ~ 平成 28 年 3 月 25 日 (3 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
なし	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
<p>今回の高崎山実習は、野猿公苑で餌付けされたニホンザルを観察することを目的として行った。サルを観察は 25 日に行った。高崎山には 3 群 1000 頭以上のニホンザルが生息しており、対象の群れを分けて一時間に一度餌付けしている。対象群を分けての給餌は、私が今まで見てきた嵐山、下北とは異なっていた。通常なら群れ間の競争が生じ、優位な群れの個体しか人間が与える良い食物を得られないところ、人為的なコントロールによって複数群が良い食物を得られるようになった結果、極めて高密度な分布になったのかもしれない。また飼育員の話によると、高崎山ではオスザルがしばしば隣接群のメスに「恋をする」そうだ。同じ餌付け場を利用し、かなり集団間の出会いがある高崎山では、群れ外のオスの子の割合が高いかもしれない。調べるためには個体数が多いのでサンプリングが大変だが。</p> <p>今回の実習は、参加者のほとんどが外国人だった。これまでも外国人とかがかわる機会はいくらかあったが、日本人の割合がかなり低いのは初めてだった。私は英語が得意でないので行く前に少し心配していたが、行ってみると何の問題もなく楽しめた。この経験は今後私が海外に行ったり、霊長研で外国人と接するときに生きると思う。これからも PWS の実習等を利用し、英語力を向上させていきたい。</p>	
	
ニホンザル	集合写真

6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラムおよび参加者の皆様に感謝申し上げます。